

上田の杜の歴史展

(啄木の妻 堀合節子の生家の井戸復元事業)

緑豊かな岩手大学植物園：上田の杜には400年以上の歴史があります。寺町、下級武士の足軽町、上級武士の武家町、住宅地、盛岡高等農林学校、岩手大学と移り変わる中で、現在の植物園があります。その中に啄木の妻となる堀合節子の生家が確認されました。啄木と賢治、節子はこの地でつながっています。



目時のヒバ

【1592～1615 上田門前町：寺町】

南部利直（第27代当主、第2代盛岡藩主）による盛岡城の築城は慶長3年（1598）から着手されましたが、それに先立ち、文禄（ぶんろく）元年（1592）から城下町を建設するための整地作業が開始されました。その最初の作業として上田堤（高松の池）の構築が始まり、上田地区の高台が市街化されました。当時、梨木町寄りの登り口には広大な敷地を持つ高源寺がありました。この寺院には北秀愛（きたひでちか：南部家臣で花巻郡代）の死後に出家した妻、高源寺殿（第24代当主晴政の五女）が住んでいました。また、晴政の側近（第25代当主晴継（はれつぐ）の実母）も出家して同居していました。このため、高源寺に仕える多くの尼が門前に住み、この地域を上田門前町と呼んでいました。

高源寺殿は慶長13年（1608）3月5日に死去したために、高源寺は廃止されました。しかし、10年も経たないうちに同地には青森県南部町から聖寿寺（しょうじゅじ）が移ってきました。聖寿寺は元禄年間（1688～1704）に北山に移されましたが、その跡地に寛政年間（1789～1800）まで、東禅寺（とうぜんじ）隠居所や教浄寺（きょうじょうじ）隠居所が置かれました。



大光山聖寿寺（青森県南部町から移転）



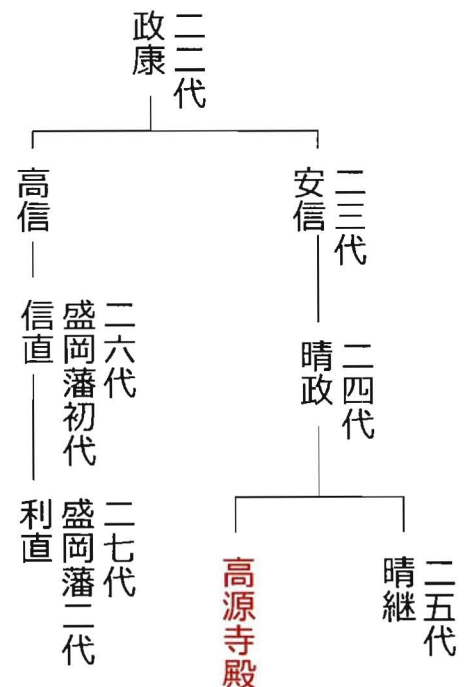
大賢山東禅寺（遠野市から移転）



擁護山教浄寺（青森県三戸町から移転）

聖寿寺や東禅寺は南部家の菩提寺で、歴代の盛岡藩主の墓があります。

南部家の当主の系図（第22～27代）



【1615～1778 足輕（同心）町（下級武士の屋敷）】

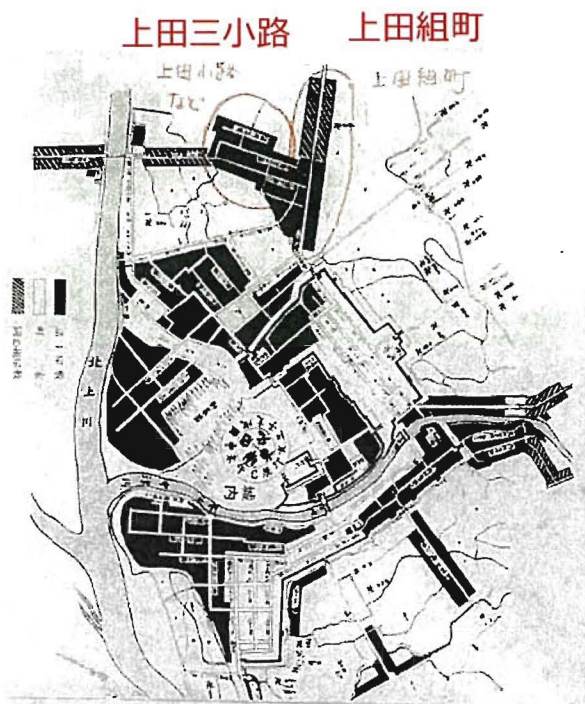
盛岡城は、慶長年間（1596～1615）に総石垣の平山城として一応完成しました。このころ、藩主の南部利直（としなお）はこの地を不來方（こずかた）から盛岡に改めました。さらに城を中心とする碁盤（ごばん）割りの城下町を整備するため、元和3年（1617）から城下の整備を始めました。この整備では上田門前町に足輕を置き、北方の警備を担当させました。同じ時期に上田門前町の北側には上田与力小路が元和元年（1615）に設けられ、足輕町が拡大しました。なお、上田門前町の東側には上田組町があり、奥州道中（現在のの上田通り）に沿って屋敷が続いていました。上田門前町の入口となる十字路から南側は武家屋敷でしたが、北側は足輕町で5組の足輕組が配置されていました。

足軽(寛保(かんぼう)2年(1742)に同心に改称)とは下級武士で、戦時には兵卒として戦いましたが、平時は与力の元で城下の警備や雑務をこなしていました。上田門前町と上田与力小路にも足軽組がありました。彼らは下級公務員として仕事をしていましたが生活は苦しいため、内職として草履表(くさぞりおもて)を作っていました。江戸ではそれを南部表と呼び、盛岡藩の特産物となっていました。



上田小路の図面（寛政2年（1790））

赤杵：高源寺跡



盛岡城下図 幕末
図説盛岡四百年上巻より

【1778～1868 武家町（上級武士の屋敷）】

安永の大火

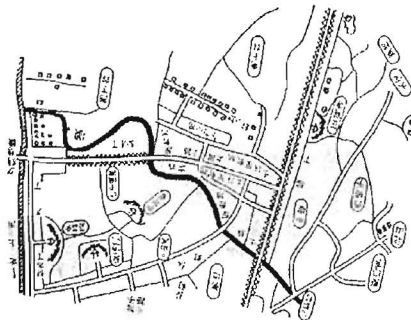
安永7年（1778）4月18日、北上川右岸（西岸）の片原町付近から出火し、中津川北側の盛岡城下を全焼させた大火事がありました（家屋2,426戸、寺院22寺が焼失）。当時、町方の火消しは町内自治に任されていたため、十分な機能を発揮されない状態でした。そのため、天明8年（1788）に公費によって竜吐水（りゅうどすい：旧式の消防用具）が各町内に常備され、消防組も作られました。

大火後、城下の上級武士の屋敷が不足したため、上田門前町にあった足軽屋敷と東禅寺隠居所・教浄寺隠居所を武家の屋敷に入れ替えました。さらに不足した分は上田与力小路の北側にあった上田村上台の田畑を切り開き、嘉永（かえい）5年（1852）に上田新小路を設け、武家町としました。この頃から上田小路（上田門前町と上田横町・上田裏町が文化10年（1813）に改称）・上田与力小路・上田新小路を合わせて上田三小路と呼ぶようになりました。

なお、通用門から入った場所に「山辺のマツ」と呼ばれているヒメコマツの老木があります。この場所は上田与力小路40番地に当たり、盛岡藩のお目付役であった山辺直正が住んでいました。当時、武家屋敷であったことを物語るわずかに遺産です。



上田与力小路の屋敷にあった山辺の松



上田周辺の図面 明治4年（1871）
他の地図とイメージを合わせるため
逆にしています。（もりおか物語り
五より）



上田組町の山田家（昭和11年3月撮影、嘉永3年建築
57年経過したぐずり取りこし館） 山田豊一氏蔵

上田組町にあった足軽（同心）屋敷
嘉永3年（1850）建設

【1868～1901 住宅地：武士から転じた人々の屋敷】

明治維新になるとこれまでの体制が大きく変化し、盛岡藩でも短期間に様々なことが大きく変わりました。特に明治元年（1868）9月に盛岡藩は降伏し、明治3年（1870）の廃藩置県によって盛岡県となりました。さらに明治5年（1872）に岩手県に改称され、明治9年（1876）5月に現在の県域が確定しました。また、明治2年（1869）の東北地方の大凶作では藩士（藩に籍を置くもので、同心も含む）の米（米で与えた給与）は半分に減額され、生活は悲惨極まる状態でした。さらに藩士は身分を失い、新しい職業に就くこととなりますが、刑務所の看守、裁判所の事務官、巡査などが多く、農業に従事する人もありました。そのため、武家屋敷から転出し、屋敷の住民は大きく入れ替わったり、空き家も増えました。

明治34年（1901）に与力小路の一部（北側）と上田新小路、さらにその北側の米内村上田が買収されて国有化されました。この敷地は盛岡高等農林学校のために整地されました。

明治30年代になると、全国から高等教育を行う機関の設置を請願する書類が帝国議会に出されます。岩手県議会も「農林学校を請う建議」を明治32年（1899）6月に可決し、10万円が国に寄附されました。この寄附金などに基つき、明治34年（1901）に与力小路の一部（北側）と上田新小路、さらにその北側の米内村上田が買収され、国有化しました。この敷地（9万849坪）が盛岡高等農林学校になります。

堀合家



土地台帳による上田与力小路・新小路 明治20年（1887）
後から書き加えられた「岩大本館」（現農業教育資料館）の位置は実際とは異なる

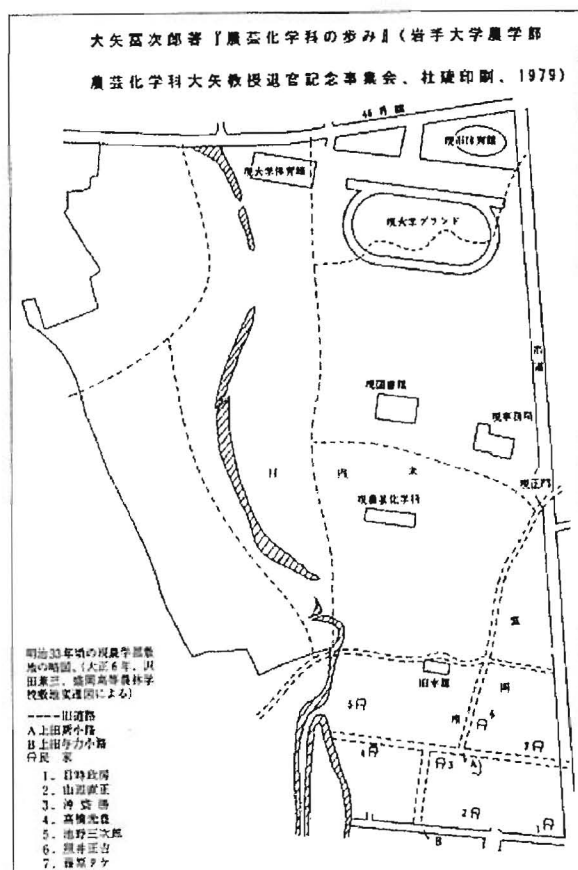


初代市長目時敬之氏

目時敬之（1862-1896）
明治22年（1889）に初代
盛岡市長になりました。

目時の杉・桧葉と初代盛岡市長

旧正門の方に向かって行くと5本のヒバが並んでいて「目時のヒバ」と呼ばれています。目時家とは盛岡の初代市長「目時敬之」の屋敷で、そのお宅の庭木であったと思われます。「目時の杉」もありますが、さぞ立派な大きな屋敷だったのでしょうか。ちなみに宮沢賢治が在籍していたころも「山辺の松」や「目時のヒバ」はあったのですが、彼の作品には全く登場しません。



資料12. 盛岡高等農林学校敷地変遷図（明治33年）

明治33年（1900）の敷地の略図

【1901～1949 盛岡高等農林学校】

明治35年（1902）3月27日に盛岡高等農林学校の設置が公布されました。翌年、83名が入学しましたが、開校式は明治38年（1905）5月28日に行われました。その後、昭和19年（1944）に盛岡農林専門学校に改称されますが、ほとんどの建物は創立当時のまま使用されていました。この間、次のような構内整備が行われました。

本館（現在の農学部附属農業教育資料館：重要文化財）は明治45年（1912）5月に起工し、大正元年（1912）12月に完成しました。それに伴い、正門が旧与力小路に面した場所（第一期の正門）から、梨木町から登った場所（第二期正門）に変更されました。また、第一期の正門にあった門番所（重要文化財）も現在地に移築されました。

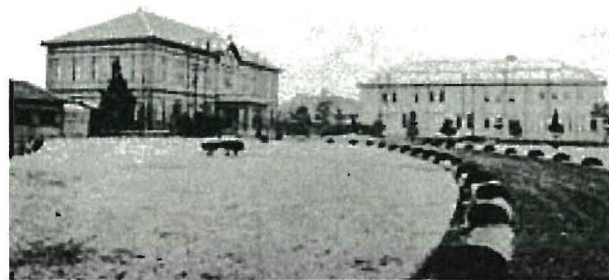
植物園は明治38年（1905）4月に構内の南東部に設置され、明治44年（1911）に現在の自然教育園に移転しました。そこには池や岩山が造られ、高山植物も植えられましたが、現在ではブナやヨーロッパブナ、コナラ、キタコブシなどの樹木が茂っています。植物園は昭和49年（1974）に現在の位置に移転しました。その後、昭和55年（1980）に植物園内に池（後日、北水の池と命名）と築山が造成されました。

現在、構内に茂る樹木は大正時代中ごろに植栽された外国産の樹種（ユリノキ、バンクスマツ、ストロブマツ、ブンゲンストウヒ、ラクウショウなど）が多く、スギやコナラなどの在来種も含まれています。特に梨木町から第二期の正門までの通路沿いにユリノキとキササゲが植えられたのは、大正9年（1920）のことだったようです。

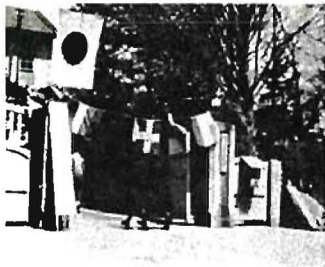
なお、浅田次郎の小説「壬生義士伝」（1998～2000）の主人公、吉村實一郎は上田組町で育ち、その次男が盛岡高等農林学校の教授になったという設定の小説です。



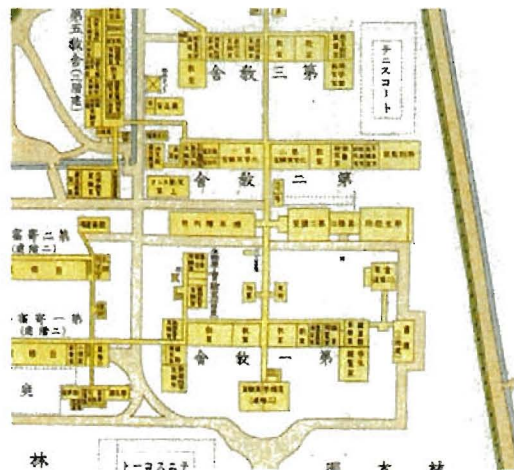
盛岡高等農林学校の創立当時の正門付近 明治36年（1903）撮影



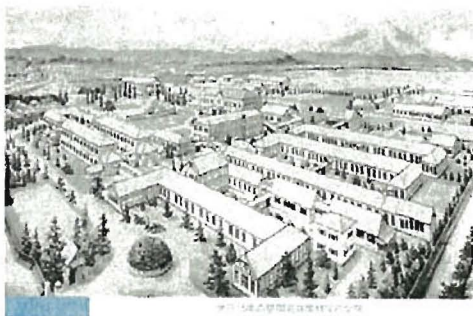
本館と第五教舎 大正12年（1923）撮影



現在、通用門と呼ぶ当時の正門 昭和18年（1943）撮影



盛岡高等農林学校構内図 昭和12年（1937）頃



南東部から見た校舎全景 明治36年（1903）

【堀合節子にまつわる車井戸と温室】

石川啄木の妻となる堀合節子は、父堀合忠操（昭和6年（1931）に74歳で死去）、母トキ（大正8年（1919）に53歳で死去）の第一長女として、明治19年（1886）10月14日に南岩手郡上田村上田新小路11番地に誕生しました。この場所が現在、どこに当たるのかを亀井茂が平成12年（2000）に調査した結果、農業教育資料館の南側に当たることが分かりました。特に温室の西側にある古井戸は、堀合家の敷地にあったものと推定しました。今回の調査で開学直前の地図が発見され古井戸が11番地にあったことが確認されました。当時、共同井戸であり、産湯として使われたことには間違いありません。今回、古井戸の復元に当たっては、大正2年（1913）に撮影された写真（写真12）と盛岡市内にある古井戸を参考にしました。

車井戸に隣接する木造温室は大正13年（1924）12月に完成しました。建坪80坪で当時、東北一の規模を誇り、バナナ、ゴムノキ、パイナップルなどの熱帯植物も植えられ、多くの見学者が訪れました。この場所に温室を建てたのは水源として井戸があったからと考えられます。昭和53年（1978）に改築された現在の温室では使用していませんが、土台は当時のままです。

なお、堀合節子は明治23年（1890）4月に盛岡市仁王字新山小路3番地に転居します。その後、盛岡中学校で石川（後に啄木と名乗る）と出会い、明治38年（1905）5月12日に一の父石川によって婚姻届が盛岡市役所に提出され、事実上、結婚します。啄木が死亡した翌年の大正2年（1913）5月5日、函館で肺結核によって死去しました（享年28歳、満27歳）。

啄木の妻節子生誕の地

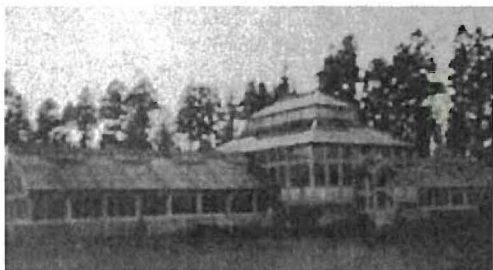


堀合節子（1886-1913）石川啄木の妻



井戸が写る本館西側の様子 大正2年（1913）

井戸



大正13年（1924）に井戸の水を利用して木造温室が完成しました。この温室に、修学旅行に生徒が見に来たそうです。



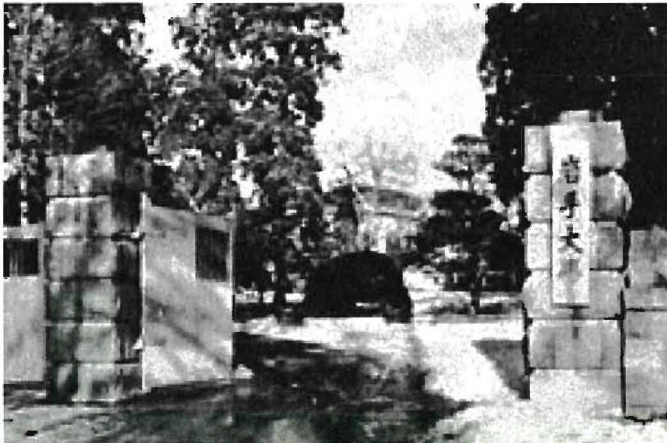
竣工時の木造温室とその内部 大正14年（1925）撮影 この温室は当時としては東洋一を誇り、冬でもバナナ、ゴム、パイナップルなどの熱帯植物が繁茂していました。



温室東側の丸枠は花壇中央に作られた池です。
昭和26年（1951）撮影

【1949～現在 岩手大学】

昭和24年（1949）5月、岩手師範学校、岩手青年師範学校、盛岡工業専門学校、盛岡農林専門学校が合併して岩手大学が設置されました。同時に一般教養部が設置され、構内の中央部に岩手県の寄附によって校舎が建てられました。その後、明治時代に建てられた木造校舎は順次、撤去され、現在の場所に鉄筋コンクリート造りの建物が建てられていきます。特に大正時代から本部として使用していました本館は昭和48年（1973）に任務が終わりました。そのため、昭和53年（1978）に正門が現在の場所（第三期の正門）に移動しました。



現在、旧正門と呼ぶ当時の正門 昭和26年（1951）撮影



構内にある自啓寮 昭和35年（1960）撮影
明治36年の開校と同時に開設されました。玉利校長は学生の質実剛健、謹厳実直、勤儉自治、友愛互助の精神育成のため新入生に1年間の全寮制を義務付けました。昭和47年（1972）に取り壊され、下台見本園跡の現在地に移転しました。



破碎転圧工法による池の工事
昭和55年（1980）



平成5年（1993）に北水の池と命名されました。

【岩手大学の周辺】

太平洋戦争（1941～1945）後から昭和40年ごろまで、大学周辺にはまだまだ田畑が多く、住宅は上田通りと上田小路・与力小路沿いに並ぶ程度でした。その当時、上田地区には岩手大学以外に岩手県立盛岡中学校（盛岡第一高等学校，大正6年（1917）に内丸から移転し，現在に至る），岩手県立工業学校（岩手県立盛岡工業高等学校，昭和12年（1937）に内丸から移転し，昭和45年（1970）に都南村羽場へ移転する），NHK盛岡放送局（昭和13年（1938）に開局し，現在に至る），（日本）専売局盛岡工場（大正15年（1926）に大沢川原から移転し，昭和47年（1972）に下厨川へ移転する）がありました。住宅街へと大きく変わったのは住居表示が街区方式に変わったころ（昭和41年（1966）に上田地区は上田1～4丁目となる）です。



岩手大学周辺の空中写真
昭和27年（1952）5月6日撮影

【植物園にある明治・大正時代の建物】



百年記念館

昭和3年（1928）盛岡高等農林学校開校25周年を記念して卒業生の寄付により建設され、農学部同窓開館として使用されています。



農学部倉庫（現 標本庫）

明治36年（1903）竣工



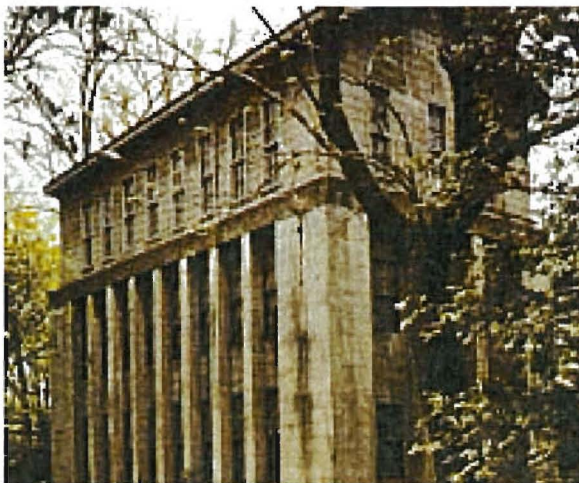
井戸

昭和34年（1959）に7基ありましたが、昭和51年（1976）までに5基撤去され、現在では2基になりました。その1基が掘合家の井戸です。



門番所（重要文化財）

明治36年（1903）竣工



現ミュージアム企画展示棟

昭和4年（1929）竣工 図書館書庫として2階建てのコンクリート製建物でしたが、昭和29年（1954）に3階に増築後、平成5年（1993）に再び2階建てに模様替えされました。昭和40年（1965）撮影



農業教育資料館（重要文化財）

大正元年（1912）竣工

【岩手大学ミュージアム】

岩手大学ミュージアムの常設展示室がある建物は、盛岡高等農林学校第一教舎の東端にあった図書館（閲覧室）にあたり、築100年を超えています。また、企画展示室がある建物は昭和4年（1929）に建てられ、現存するコンクリート製のものでは最古のものです。これらの建物は、

明治36年（1903）～昭和46年（1971）：農林学校図書館、岩手大学付属図書館中央館・農学部分室、
昭和47年（1972）～昭和52年（1977）：農学部資料館、
昭和52年（1977）～昭和59年（1984）：農学部附属演習林附属緑化センター、
平成5年（1993）～平成12年（2000）：放送大学岩手ビデオ学習センター、岩手地域学習センター、
岩手学習センター、
平成15年（2003）～：岩手大学ミュージアム本館として使用されてきました。



放送大学は岩手ビデオ学習センター 平成5年（1993）、岩手地域学習センター 平成6年（1994）、岩手学習センター平成10年（1998）と改称しながら平成12年（2000）まで利用しました。



岩手大学ミュージアム
アプローチモニュメント
「子供の王国」

※参考文献

もりおか物語（五）—上田かいわい—，盛岡の歴史を語る会，熊谷印刷，1976
農芸化学科の歩み：盛岡高等農林学校・農専・農学部，大矢富二郎，大矢富二郎先生退官記念事業，1979
岩手大学一般教育三十年史—一般教育部から人文社会科学部への歩み—，岩手大学人文社会科学部，1981
図説盛岡四百年上巻，郷土文化研究会，川口印刷，1983
岩手県の地名，平凡社，1990
もりおかの地名，盛岡市，熊谷印刷，1990
岩手県の歴史，細井計ほか，山川出版社，1999
岩手大学五十年史，岩手大学創立50周年記念誌編集委員会，岩手大学，2000
啄木の妻堀合節子の生誕地について—岩手大学農学部植物園内にその場所を求めて—，亀井茂，早池峯，26号127-152，2000
岩手大学農学部百年史，岩手大学農学部百年史編集委員会，岩手大学農学部，2002

※参考資料

「盛岡市上田一～三丁目の変遷」

岩手郡上田村～元和元年（1615）～盛岡城下上田門前町・上田横町・上田裏町～文化10年（1813）～盛岡城下上田小路～明治4年（1871）～岩手郡上田村上田小路～明治12年（1879）～南岩手郡上田村上田小路～明治22年（1889）～盛岡市上田字上田小路～昭和20年（1945）～盛岡市上田小路～昭和41年（1966）～盛岡市上田一丁目

岩手郡上田村～元和元年（1615）～盛岡城下与力町～文化10年（1813）～盛岡城下上田与力小路～明治4年（1871）～岩手郡上田村上田与力小路～明治12年（1879）～南岩手郡上田村上田与力小路～明治22年（1889）～盛岡市上田字与力小路～昭和20年（1945）～盛岡市与力小路～昭和41年（1966）～上田一・三丁目

岩手郡上田村上台～嘉永5年（1852）～盛岡城下上田新小路～明治4年（1871）～岩手郡上田村上田新小路～明治12年（1879）～南岩手郡上田村上田新小路～明治22年（1889）～盛岡市上田字上田～昭和41年（1966）～上田三丁目

岩手郡上田村上台～明治12年（1879）～南岩手郡上田村上台～明治22年（1889）～南岩手郡米内村上田字上台～明治30年（1897）～岩手郡米内村上田字上台～昭和3年（1928）～盛岡市上田字上台，東上台など～昭和41年（1966）～上田三丁目

岩手郡上田村～盛岡城下上田組町～明治4年（1871）～上田村上田組町～明治12年（1879）～南岩手郡上田村上田組町～明治22年（1889）～盛岡市上田字上田組町～明治45年（1912?）～盛岡市上田字西組裏・東組裏～昭和20年（1945）～盛岡市上田西組裏・上田東組裏・上田中堰・上田大道・覚山脇～昭和41年（1966）～盛岡市上田一丁目・二丁目・三丁目